



学校教育目標 ～自ら学び 共に高め合う 心豊かでたくましい生徒の育成～

本当の仲間づくりをめざして 〈人権学習〉

以前にもお伝えしましたが、本校では「自分や周りの人の人権について考え、よりよい生活を送るためには、どうすればよいのかを考える日」〈人権を考える日〉を設定し、人権学習を行っています。5月23日(金)にも全校で人権学習を行いました。人は、自分のことだけを考えてしまいがちですが、子どもたちには、人を思いやる心を持ち、それを形として表していくこと〈実践行動〉が重要で、人を大切にするには自分自身を大切にすることにつながることを知ってほしいと思います。そのために人権学習を通して、「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動がとれること」を繰り返し学んでいくことが必要です。

人権学習の様子（3年生）



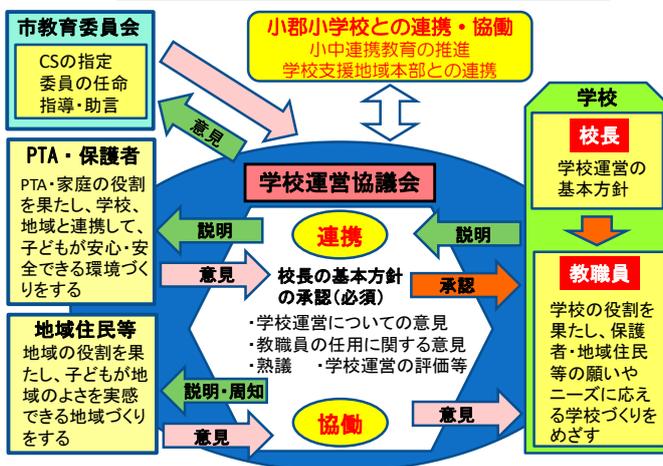
また、自分と他者の人権を守るために想像しようとする気持ちと想像する力をつけていくことも必要です。子どもたちには、人の悩み・心配・痛みを想像しようとしなない人、想像できない人には、なってほしくありません。もし、自分の行いや発言で誰かを苦しめていたり、誰かにきつい思いをさせていたりしていたら、こんなに悲しいことはないでしょう。逆に「この言葉を発することで、この行為をすることで、相手は、周りの人たちは、どんな気持ちになるだろう、そして、自分はどうなるだろう。」と想像できる人は、とても素敵で安心・安全を心から実感できる小郡中学校をつくることのできるはずで

引き続き「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」を開催していきます

本校は、令和元年度から「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」を導入しています。

これは、保護者や地域の方が、合議制の機関となる「学校運営協議会」を通じて、学校運営に参画し、学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育の実現をめざすことを目的に地域に開かれた地域に支えられる学校づくりの仕組みとして制度化されているものです。

コミュニティ・スクールの組織・相関図



学校運営協議会のメンバーは、学校教職員を含めた10名で構成されており、小郡中の応援団として、毎回学校のために熟議を繰り返しています。5月13日(火)に開催された、令和7年度第1回学校運委協議会では、今年度一年間の内容を確認するだけでなく、市役所の方々を招いて、子どもたちのために学校施設がどうあるべきかについて、真剣な議論が繰り広げられました。

なお、本年度のコミュニティ・スクール推進計画は小郡中ホームページにも掲載する予定です。

教育実習生く3週間の実習、ありがとうございました

5月12日(月)から5月30日(金)までの3週間、社会科の教育実習生として先生が本校で勉強をしました。3週間の中で授業のことだけでなく、3年3組の生徒とのふれあいや、多くの生徒とも一緒に活動してくれました。体育大会でも全力で子どもと活動する姿が心に残っています。3週間ありがとうございました。先生からみなさんへのお礼の言葉を紹介します。



はじめに、あたたかく迎えてくださった校長先生をはじめ、先生方や保護者の皆様、生徒の皆さんに深く感謝申し上げます。

今回の教育実習を通して、自分の中学時代を思い出しました。仲間と笑ったり泣いたりした日々や、悩んだこと、叱られたことなど、すべてが一生の思い出として心に残っています。あの頃出会った仲間は今でも私の支えであり、人生の宝物です。実習をさせていただく中で、中学時代が自分にとって大きく成長できるかけがえのない時間だったことに改めて気がつきました。そのような貴重なひとときを私も共に過ごさせてもらい、とても嬉しく思います。今日までの実習を振り返ると、学びの連続でした。この経験を胸に、心に残る教師を目指して歩み続けます。本当にありがとうございました。

5月30日

倒れたら 起き上がるために今、全力を尽くす

「いい言葉は、いい人生をつくる」という本の中に印象に残っている内容があります。パソコンで一世を風靡したアップル社のCEO(最高経営責任者)だったギル・アメリオ氏は、1990年代後半、会社のひどい不振に悩まされていました。このとき、アメリオ氏は、悩んでも解決していかないことはいっさい忘れ、当面やらなければならない仕事を一つ一つ片づけていきました。「ジタバタしても事態は変わらない。心配しても解決しないことは、心配しない。」と彼は言っています。

過去にくよくよせず、今に全力を尽くす姿勢を示していくことで、「具体的に何かをしなくては、乗り越えることはできない。」と会社の中に行動力を生み出しました。その結果アップル社は、危機を乗り越え、大ヒットを続けて、息を吹き返すことができました。

ものごとがうまくいかなかったとき、事態をさらに悪化させるのは、本人自身がジタバタとうろたえて、われを失ってしまうことだそうです。すぐに起き上がる力をつけることは、大人だけでなく、未来を生きるみなさんにも必要なことなのかもしれません。